

# 2024年 運営報告



↑ 2025年1月1日撮影・TCP屋上

2024年も皆様の温かいご支援を基に、子どもたちが安心して成長できる環境をととのえることが出来きました。これもひとえに、私たちの活動にご理解を寄せてご支援くださる皆さまのおかげさまです。心より感謝申し上げます。



# 2024年の出来事



## 2月10日 ロッサー タシデレ！

チベット歴 2151 年は木竜年。ネパールでチベット暦のお正月は、昔は 15 日間お祝いするのが風習でしたが最近では 3 日間、TCP では子供たちの学校に合わせて 1 日だけお祝いをしています。



## 2月 第43回全ネパール日本語弁論大会のジュニア部門に デチェンが初参加



テーマ：「人生は冒険」

デチェンが弁論大会で自分の人生のエピソードを盛り込んで熱弁してくれました。とても感動的なスピーチで、多くの方にお褒めの言葉を頂きました。

おかげさまで 2 位という素晴らしい結果を頂きました！大会後にデチェンは、「人生」という冒険には挑戦と感謝が欠かせないということを知りました。これからも私は、たとえ困難な道でも恐れずに進み、出会う人々や経験に感謝しながら、自分の物語を紡いで行きたいと語っていました！デチェンの成長ぶりに驚かされます。



## 3月 7年間キッチンスタッフとして従事してくれたアチャツェリン退職



2017 年 8 月より住込みで子供たちに愛情を持って、運営にも関わってくれた笑顔で心優しいアチャツェリンが退職致しました。

アチャツェリンは退職後は一度故郷に戻り、その後は在家の尼さんのように静に仏教を学びながら日々実践をしていきたいとのことでした。7 年もの長い間、本当にありがとうございました。

アチャツェリンが作ってくれたダールと野菜炒めの食事は最高に美味しかったです。

## 4月 ペンバ&ラクパ、バヌバクタスクールへ入学



ナムギャルスクールを卒業したペンバは、9年生からバヌバクタスクールへの転校を果たしました。ラクパはナムギャルスクールで7年生を終えて、8年生からバヌバクタスクールへ転校しました。今まででは全ての授業がチベット語で行われていましたが、新たな学校ではネパール語で社会科や歴史の授業があり、最初は二人とも苦労していましたが、今はすっかり順応し学校生活を楽しんでいます。

## 7月 JLPT 日本語能力試験受験



今回はクンサンとチュズムがJLPTのN2を受験し、クンガとタシがN3にチャレンジしました。タシとチュズムは3月に12年生の最終試験を終えてから次の目標に向けて猛勉強をしていました。クンガも学年末試験後から二人に混ざって頑張りました。クンサンは医学の勉強と並行して努力していました。試験当日は4人とも自信に満ちた表情で挑みました。



## 8月 薬草支援事業とそのリサーチ



長らく考え続けてきた目標の一環として、私たちはチベット医学の薬草の保全とヒマラヤの伝統的な自給経済の促進を図るため、チベットの薬草を栽培することを計画しました。この試験的なプロジェクトは、アムチの仲間たちと共に実施され、薬草の栽培を始める契機となりました。



今年で2年目、昨年試験的にドルパタンとムスタンへ薬草の苗などを植地させ球根を増やす



作業を行い、僅かながらも8月～10月に見事に開花させることに成功しました。今年もリサーチを兼ねて薬草の種や球根などを運び、現地での発育状況や今後の薬草支援の可能性について話合いました。この新たな取り組みが地元のチベットコミュニティとチベット医学に貢献することを期待しています。

## タシ・ペマ・チュイン・チュズムの4名は12年生を卒業

このたび、4名は無事に12年生（高校）を卒業することができ、喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。これからも彼らは精進し、社会に貢献できるような人間になるよう努力してまいります。今後とも応援のほどよろしくお願ひいたします。



↑ 薬草や緑が大好き！ ↑ 大好きな日本で介護士！ ↑ 日本の寿司職人になる！ ↑ 日本で合気道を習うぞ！

## クンガ、バヌバクタカレッジへ入学



クンガは、3月に10年生の卒業試験を受け、7月に成績が発表されました。驚いたことに、クンガはTOPで初となるA+という最高の評価をいただきました！クンガは小さい頃からイシを手本にしながら、コツコツと努力を続けてきました成果だと思います。私たちは成績にふさわしいカレッジを選ぶように勧めましたが、クンガはバヌバクタカレッジを選びました。このカレッジを選んだ理由は、成績がA+の場合授業料が半額になること、そして長年通った学校に愛着があること、そして専攻はコンピューターのプログラミングに興味があるので、コンピューターサイエンスに決めました。カレッジでは新しい友達がたくさんできて、楽しい日々を過ごしているようです。

## 9月 チュズムが日本へ留学



チュズムの努力が実り念願の日本への留学が叶いました！  
10月1日から東京の日本語学校へ半年通い、2025年4月からは介護専門学校へ通います！今は日本語学校の勉強とアルバイトに励んでいます。今後様々な奨学金が貰えるように只今申請中です。イシの大学寮が近いので、いつも二人で自炊を楽しんでいるようです。

今までチュズムを暖かく励ましてサポートして下さった皆さまのおかげさまです。心から感謝申し上げます。



## 10月 チベット医学生たちへ日本鍼灸講座&チベット人老人ホームで無料診療



毎年不定期に行われているチベット医学生向けの日本鍼灸講座に、8名の医学生とチベット医が集まりました。講座では、内臓強化や頭痛や腰痛、肩こりに特化した治療と、日本



の腹診講義もして下さいました。チベット医学生たちは患者の体に直接触れる経験が殆どなかったので、腹診は特に興味深い経験となったと喜んでいました。



れ、実践を通して学び合う機会が提供され、有益な経験が得られたことと思います。

## ツェデン＆パサン



ツェデンは春から時々TCPに来てくれるようになり、今は住み込みスタッフとして働いています。彼は8年生を卒業した後、農村でさまざまな仕事を経験しました。その中でも、中国との国境を越えて冬虫夏草を採取することが得意でしたが、収穫した分を騙し取られたり盗まれたりと、多くの苦労もあったようです。8月ごろからカトマンズでバリスタと調理の資格を取得しましたが、なかなか仕事が見つからず、現在はTCPのキッチンと子どもたちの世話を担当しています。TCPで育ったツェデンは施設のことをよく知っているので、すぐに子どもたちと打ち解け楽しく働いてくれています。



昨年11月からTCPの教育スタッフとして働いてくれていたパサンが、念願だったフランスへ行くことになりました。彼女は亡命チベット人の証明書を持っているため、フランスでは政府からの手厚いサポートを受けることができます。パサンはお姉さんと一緒に安定した環境で自立できることを、とても楽しみにしているようです。パサンがTCPを離れるのは残念ですが、彼女の長年の夢が叶うことを心から嬉しく思います。新しい地での生活が素晴らしいものになるよう、私たちは祝福と応援を送りたいと思います。

## 11月 鍼灸師協会とパルピンのチベット僧院や行場での無料診療



毎年恒例となっているパルピンでの無料診療と日本鍼灸治療が今年も実施され、63名が受診しました。そのうち約80%はチベットの僧侶や尼僧で、彼らの主な疾患は、修行に特有の「気の病」と、長時間の座禅や読経による膝や腰の関節炎、痛みなどでした。日本から来られた鍼灸師の方によると、亡命者として異国で生活する不自由さや、故郷や家族を想いながらも帰れないという大きなストレスが、自律神経に影響を及ぼしている方が多いとのことです。彼らの生活環境や



精神的な負担を思うと、その健康上の問題がいかに深刻であるかを改めて感じます。このような診療が少しでも彼らの心身の癒しに繋がることを願っています。  
☆今回初めて無料診察ボランティアに参加したペンバの感想、「多くの病人の手伝いが出来て良い経験になった、自分は必ずチベット医になり多くのチベット人に寄り添いと思う。また日本の鍼灸師さん達のように心優しい人になりたいと思いました」。



## チベット医学生たちへ日本鍼灸講座



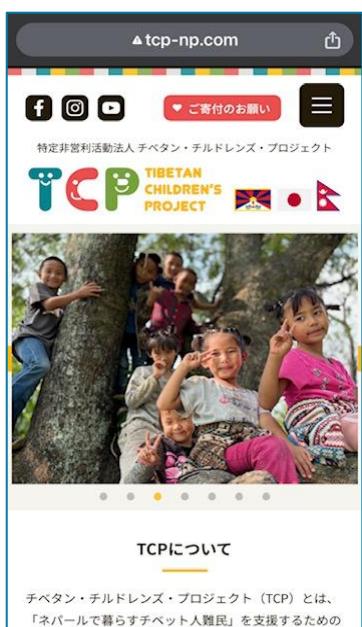
毎年不定期に行われているチベット医学生向けの日本鍼灸講座、今年2回目の日本鍼灸講座が行われました。日本人講師4名と医学生チベット医14名が集まり、実技をメインに行われました。特に免疫力と自然治癒力をUPさせ、身体全体の健康を底上げする助けとなる基本的な技法を教わり、実際に二人一組になり試したりしました。医学生たちは日本の鍼灸をチベット医学の治療と併用することで、より効果的な健康維持や病気予防、チベット薬



との相乗効果が期待できると述べていました。また生徒から次回は長期間で講義&実践をして欲しいリクエストされました。



## 12月 TCPのホームページがリニューアル



TCPの初期のホームページは、2009年から事務局をサポートして下さっていたウェブデザイナーの増田あきこさんによって制作されました。しかし、昨年NPO法人として正式に登録されたことに伴い、団体の概要や活動報告をより明確に発信する必要が生じました。そのため、ホームページをリニューアルし、説得力のある情報発信ができる内容へと改訂することとなりました。

幸いなことに、増田さんにリニューアルの相談をしたところ、快く引き受けてくださいました。さらに、TCPを応援したいという思いから、今回も有難いことに無料で制作して頂きました。このような世知辛い時代に、心温まるご厚意に励まされ、感謝の気持ちでいっぱいです。この場をお借りして、増田さんに心よりお礼申し上げます。新しいホームページは、PCでもスマートフォンでもとても見やすく、可愛らしくコンパクトに仕上がっています。ぜひ一度チェックしてみてくださいませ！！

### ・クンデ・チベタン・ハーバルクリニックの運営状況



今年は毎月約180名の患者様にご来院いただきました。以前はネパール人の患者数は少なかったのですが、コロナ以降チベット人に限らず様々な方々が受診されます。シェラップアムチの薬の原材料はチベット本土から新鮮な薬草を取り寄せ製薬しているので、効果は絶大で高い評価を得ています。アメリカ・ヨーロッパ・ロシア・台湾などへまとめた量を輸出しています。またネパール

の寺院やアムチ達にも良く効く薬として卸売もしています。



週末の休みを利用してTCPの医学生はアムチの元で製薬方法や經典にはない技法など口伝えに教えて貰っています。こうしてチベットの伝統医学は口伝伝承されているのでしょうか。またTCPの子供たちは小さい頃からチベットの薬に親しみ、休日の時には診療所の掃除や製薬の手伝いをすることでチベット人としてのアイデンティティーが少しづつ育まれるのだと思います。



## ・チベット医学生3名の退学とその後の進路について

タチェンは2年生終了後、ヌモは1年生終了後、チュインは1年生2学期で退学しました。チベット医学は、診断法や治療法だけでなく、人間の身体や病気、薬草学、哲学的な考え方までを網羅した非常に堅固な学問ですし、時間と努力と医学のセンスが必要です。彼らは「チベット医学は自分たちに不向き」という理由でしたが、2~3年間医学校で学んだことは決して無駄ではなく、今後も様々な形で役立っていく信じています。

今後チベット伝統医学はチミとクンサンが引き続き頑張ってくれるようす。

その後、タチェンは現在カトマンズ市内にある日本料理レストランのキッチンで働きながら日本語の勉強をしつつ、日本の料理学校へ留学か特別技能の外食枠で就労を目指しています。またタチェンはTCPに近い場所で部屋を借りて独り暮らしを始めました。ヌモは不定期なシンギングボール検品バイトとTCPの全般的な仕事を手伝ってくれています。今後は、ボランティアで来ているメイクアップアーティストの結季さんからまつ毛パーマの技術を学び、その後ネイルアート学校に通って、個人で仕事をすることを計画中しているようです。その一方でTCPの運営を学びつつ今後も支えて行きたいとの意向です。アチエツエリンやパサンの離職後はヌモが全体を仕切ってくれているのとても助かっています。チュインはチベット薬草事業のためにパーマカルチャー（自然の仕組みを模倣し、持続可能な生活や農業のデザインを目指す概念と実践方法のこと）を学ぶことに決めており、南インドへの留学を予定しています。今後も三人三様それぞれの未来をこれからも守っていきたいと思います。



## ・12年生4名の卒業後の進路について

12年生を無事に卒業した4名のうち、チュズムは10月に日本への留学を果たしました。チュインは先述通り、南インドでの学びを計画しています。一方、タシとペマは日本で働きながら資金を貯めて、それぞれの夢を実現しようとしています。タシは調理学校への進学を目指し、ペマはスポーツ（合気道）を学ぶことを目標にしているようです。幸運にも、カトマンズ市内にある派遣会社メイホクトレーニングの責任者である元JICAの方とご縁がつながり、タシとペマは年末からそのトレーニングセンターの日本語クラスに参加しています。今後タシは建築分野の特別技能試験に挑戦し、ペマは日本語力がやや不足していますが、建築業の技能実習枠で日本に行けるよう派遣会社がサポートして下さっています。現在、タシとペマは早朝の日本語クラスに通い、日中はレストランでアルバイトをしています。限定された給料の中から、毎月3,000RsをTCPの生活費として入れていますが、これも自立への一歩だと考えています。懸命に努力している二人をこれからも見守っていきたいと思います。

## ・2025年の活動予定

- ① 1月からカトマンズ郊外レレ(カトマンズより23km南)にて、農地を借りて試験的に薬草の植地予定です。
- ② 1月からサタデーマーケットで毎年仕込んでいるお味噌の委託販売開始。
- ③ 3月にクンガが日本語弁論大会に参加予定です。
- ④ タシとペマは人材派遣会社を通して日本で就労、チュインはパーマーカルチャーを学ぶために南インドへ行く予定です。
- ⑤ 昨年度に続き、チベット医学生に対しては日本鍼灸などの講座を提供します。
- ⑥ 例年に続く赤字決算の影響やネパールのインフレ率を考慮し、今年は新しく子供の入居を見送ります。
- ⑦ 新型コロナ以降、サポートーの減少は著しく厳しい状況に直面しています。このため、日本でNGOフェスタなどに積極的に参加し、支援の輪を広げる活動にも力を入れる予定です。

## ・2024年を振り返り

2024年が終わり2025年を迎えました。2024年は元旦に発生した能登半島地震とそれに伴う事故など、衝撃的な出来事で幕を開けました。その後も地震や豪雨による自然災害、そして記録的な猛暑など、地球温暖化の影響を強く感じさせる出来事が続きました。そのほか「物価高、円安」など値上げが相次ぎこれからの世界がどのように変わっていくのでしょうか。ネパールでも経済格差が大きく広がり、物価高騰が止まらない状況下ですが、私たちが何不自由なく安定した運営が出来ているのもサポートーの皆さまのおかげです。

2024年12月末現在孤児院で生活している子供の数は、男子10名、女子10名の合計20名。スタッフの数は、チベット医アムチ、調理・教育担当ツェデン、運営・教育係ヌモ、現地雑務加藤の合計4名。サポートー会員様は、里親サポートー21名、月間サポートー26名、年間サポートー7名、多くのサポートーの皆さまのご支援に、改めて感謝申し上げます。また様々な形でこのプロジェクトを支えて下さっている皆さまにもこの場をお借りして改めて心より深く感謝申し上げます。これまでの間、私たちはサポートーの皆さまと共に、多くの困難を乗り越え、成果を上げてきました。引き続き、皆さまと協力し合い、より良い未来を築く為に努力してまいります。また何かご質問やご意見等ございましたら、ぜひお聞かせくださいませ。皆さまの声は、私たちの活動をより良いものにするための大きな力となります。変動する時代の中で、現地スタッフもボランティア事務局も試行錯誤の連続で運営しております。最後になりますが、これまでのご支援に心より感謝申し上げます。これからも共に歩み、チベットの子供たちが自らの文化に誇りを持ち幸せで健やかに成長できるよう尽力してまいります。

